

EcoBuy 事業実施報告書抜粋《速報版》  
 実証実験の実施概要および成果

EcoBuy サービスの目指す変化が、実際に可能であるかを検証するため、東京都内の店舗にて実証実験を実施。実施内容は以下のとおり。

**1 実施期間**

- 2017年12月 EcoBuy のプロモーション開始
- 2018年 1月 EcoBuy 実証実験の開始
- 2018年 2月末 EcoBuy 実証実験の終了

**2 実施場所**

(株)99 イチバ mini ピアゴ 入船1丁目店  
 東京都中央区入船1丁目 4-10  
 mini ピアゴ旗艦店、24H 営業  
 ※店頭にて 12:00~22:00 の時間帯に  
 スタッフ 2 人態勢で参加者を募集。



**3 内容**

- ① EcoBuy サービスの展開
- ② EcoBuy プロモーションの実施  
 EcoBuy 対象品目数 : 30 品目  
 (牛乳、食パン、生鮮食品、チルド食品など)



## 4 EcoBuy サービス内容

EcoBuy は、賞味期限/消費期限が間近となった商品を購入してポイント還元申請を行うことによって、EcoBuy 会員（消費者）へポイントを付与するサービス。

このサービスを実施するため、専用のスマホアプリ開発、ポイントセンターの開設、及びそれらの運用を行った。

EcoBuy サービスへの対象商品情報登録からポイント付与までの流れは以下のとおり。

- ① EcoBuy 対象となる商品の情報（写真、付与ポイント数など）をシステムへと登録する。
- ② 登録された商品情報が EcoBuy アプリを通じて「レコメンド」として EcoBuy 会員（消費者）へと通知される。
- ③ 通知された情報を元に EcoBuy 会員（消費者）が EcoBuy 対象商品を購入する。
- ④ 購入した商品とレシートを EcoBuy アプリで読み込み「ポイント還元申請」としてポイントセンターへ送信する。
- ⑤ ポイントセンターにて「ポイント還元申請」情報を元に内容を確認し、条件に合致していれば EcoBuy 会員（消費者）へポイントを付与する。

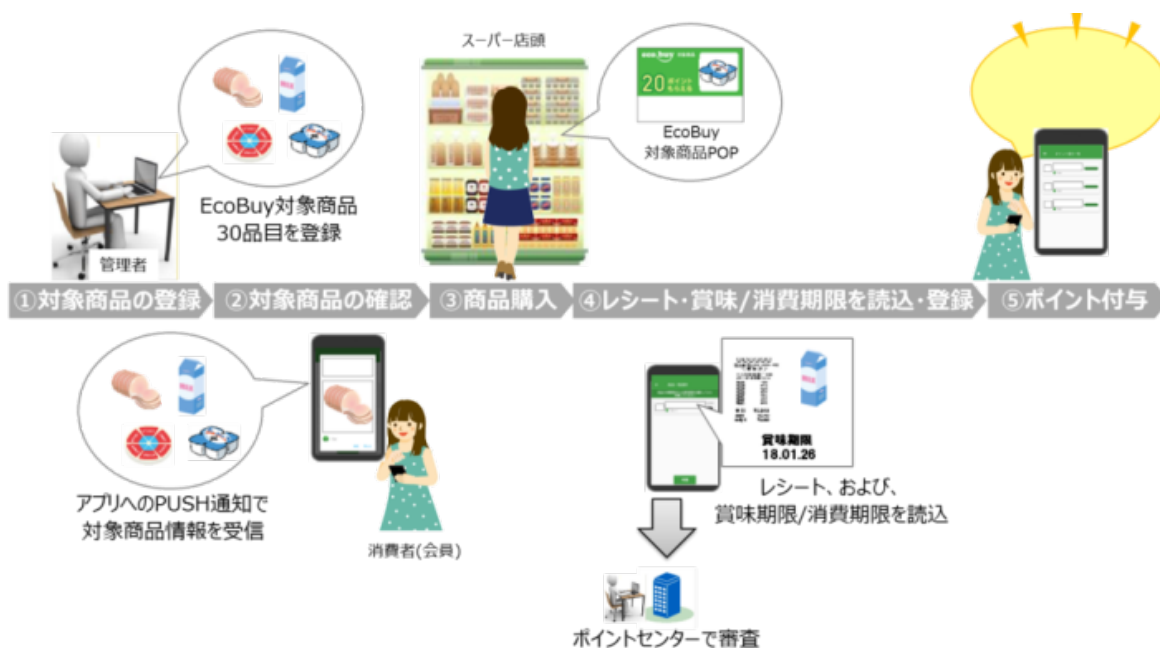


図 1 ポイント付与までの流れ

ポイント還元申請をおこなった商品については、家庭での消費状況を確認するために PUSH 通知が行われ、食べたのであれば「完食」、まだ食べていないのであれば「レシピ」を選択すると、それぞれサンキューメッセージとレシピを提示することにより、家庭での食品ロスに対しても削減できるような運用を行った。



図 2 家庭での消費登録

さらに、消費期限と賞味期限の違いなどを示すことによって、まだ食べられる食品であるかを正しく判断して食べることによって家庭での食品ロスを削減できるよう EcoBuy 会員（消費者）に対する認識や理解の啓蒙を行いました。

## 5 食品ロス削減効果について

### (1) 実証実験実データ

表 1 実証実験結果

ポイント還元申請総数	189 回
期間中の廃棄総数	511 個
合計数	700 個

### (2) 条件の変動要素を換算した想定値

前項「(2) 実証実験期間での対象商品陳列対応」で実施した変動要素を換算し、通常運用時であった場合の状況を以下のように想定した。

① 日単位での廃棄数平均から突出している値（閾値 10）が「通常運用時は平均値になる」との想定で換算。

(ア) サンドイッチの日単位平均廃棄数 5

(イ) 生鮮食品の日単位平均廃棄数 4

② 廃棄数の換算値と同じ割合で申請数を換算。

表 2 変動要素換算

	総廃棄数換算	申請回数換算
サンドイッチ	266 個 ⇒ 172 個 (差分 94 個)	24 回 ⇒ 16 回 (差分 8 回)
生鮮食品	163 個 ⇒ 140 個 (差分 23 個)	12 回 ⇒ 10 回 (差分 2 回)
差分合計	117 個	10 回

表 3 変動要素想定後の値

ポイント還元申請総数	179 回
期間中の廃棄総数	394 個
合計数	573 個

以上から、EcoBuy サービスで得られる食品ロス削減効果は以下と考えた。

**食品ロス削減効果 = 31.2%**

EcoBuy ポイント還元申請数 / 総販売数 (EcoBuy ポイント還元申請数 + 廃棄数)

### (3) 店舗における商用化効果シミュレーション

また、実証実験で考慮できなかった内容について、以下のように商用化時の対応を行うことで、更に効果の向上が期待できる。

- ・対象商品を絞らずに店舗内全体 300 品目へ拡大することにより、単純に申請回数については約 10 倍。そのため店舗側での値引きシール張り、および廃棄処理にかかる稼働が 1890 回削減できる。
- ・1 日 2 時間半程度、値引きシール張り/廃棄の作業稼働がかかっているが、31.2%の削減ができれば約 45 分/日程度の稼働削減につながる。今後、値引きシール張り作業が廃止されることにより、更に効果が高まる。